

組合員の皆さんへ

～総団結でこの難局を乗り越え、未来を切り拓こう～

組合員の日々のご精励に敬意を表し、JR西労組運動に対するご理解、ご協力に感謝します。また、新型コロナウイルス感染の不安を抱えながら、公共交通機関としての使命を果たして頂いていることに対して、あらためて敬意と感謝を表します。

新型コロナウイルス感染症は、世界各国で爆発的な広がりを見せ、感染者数は約380万人、死者数は27万人となっています(5月7日現在)。一部の国で外出規制の解除が試みられるなど、新型コロナウイルスとの共存を模索する動きはあるものの、いまだ出口の見えない危機が続いています。わが国においても、感染拡大を受け、4月6日に緊急事態宣言が発出され、感染者数は減少の兆しが見え始めているものの、収束の見込みは立たず、緊急事態宣言が延長されるなど、緊迫した状況が続いています。そして外出自粛や移動制限が続く中、日本経済にも大打撃を与え、雇用不安が急速に広がっています。

こうした中、JR西日本グループにも深刻な影響を与え、4月30日に公表された第4四半期(1～3月)決算では、268億円の最終赤字(単体)を計上したほか、直近のゴールデンウィークのご利用状況が山陽新幹線並びに在来線特急共に前年比▲95%となるなど、極めて深刻な事態となっています。また、5月7日にはのぞみをはじめとする山陽新幹線(5月11日実施)の定期列車、同8日にはサンダーバードをはじめとする在来線特急の定期列車(5月16日実施)の大幅減便が発表されました。

JR西労組は、政府が新型コロナウイルス感染症を指定感染症に定めたことを受け、1月29日に組合員とお客様の安全を確保すべく緊急申し入れを行い、マスクの着用、消毒用アルコールの配備などをいち早く行ってきました。また、教育機関等の休校を受け、勤務や休暇の柔軟な取扱いを通じ、育児をしながら働く組合員、あるいは妊産婦の組合員への支援を行うとともに、間接部門におけるテレワークや時差出勤などを徹底してきたところです。3月10日には、「臨時労使安全会議」を開催し、組合員の安全・安心を前提に、課題共有を図り、今後の対策等について議論を行うとともに、「三密」回避を目的に、一部の駅や乗務員区所において、「在宅勤務」を実施してきたところです。

このような状況を受け、本日、JR西日本発足以降初めてとなる「一時帰休の実施」に関する労使協定を締結致しました。お客様のご利用が大幅に減少し、駅の窓口等の一部閉鎖や列車の減便など、業務量が減少していることを鑑み、苦渋の決断をするに至りました。組合員の皆さんにおかれては、私たちを取り巻く現下の状況を踏まえ、ご理解を賜りたいと思います。

いまだ収束が見えない状況ではありますが、安全・安定輸送という公共交通機関としての使命を胸に、労使が一致団結し、この難局を乗り越え、未来を切り拓くではありませんか。そして、労働組合の最も重要な「助け合い」「支え合い」の取り組みを通じ、JR西日本グループの力を結集しようではありませんか。

あらためて、組合員の皆さんの負託に応え、JR西労組運動の前進に取り組む決意を申し上げます。ともに頑張りましょう。

2020年5月8日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
中央執行委員長 上村良成